

平成29年7月20日
西部農林振興センター 県央事務所 農業普及部

標 題 H29年産エゴマ栽培の動き～川本町～

(ダイジェスト)

管内の川本町を中心とするエゴマ栽培は、7月上旬に定植作業がほぼ終了し本年の作付面積は約2ha増えて20haとなりました。春から生産者団体が中心となり、新規栽培者を対象とした育苗、定植講習会が開催されてきました。また、本年は町が支援してサブソイラーによる排水不良対策や、エゴマ摘心・収穫用バリカン機を利用した摘心作業の省力化に向けた検証に取り組みます。

川本町は町の協議会とともにエゴマの生産量を増加させるために、生産基盤等の整備、単位収量の向上、省力的生産技術の導入などを図り、川本町のエゴマを全国ブランドに押し上げる取り組みを進めています。

本年、町事業として3年目となるエゴマ苗の無料配布では、中生種、晩生種をそれぞれ4,000株ずつ準備し、1坪からの作付けを呼びかけました。そして6月5日には生産者団体の協力を得て、エゴマの定植・栽培講習会が開催されています。

エゴマの生産が需要に追いついていないことや、子実の平均単収が40kg/10a弱と県内他産地に比べても低い状況もあり、本年は排水不良ほ場でのサブソイラー（弾丸暗渠）による増収効果検証に取り組むこととしています。また、7月下旬にはエゴマ摘心・収穫用バリカン機を利用した摘心作業の省力化実証も計画されています。摘心作業は増収技術として進めていますが、労力面の理由から取り組みが進んでいません。このため摘心作業の省力化と増収効果が期待されるところです。

当農業普及部としても実証ほをはじめとして各種取り組みに参画し、エゴマの生産振興を支援していきます。



◆弾丸暗渠施工ほ場



◆エゴマの生育状況